

I can Do It Too!

CURATED BY SYNONYM + MITSUNORI KIMURA

展覧会会期: 2022.11.23. (水) - 2023.7.12. (水)

プレビュー: 2022.11.22. (tue) 5PM - 8PM RSPV only

展示作家: 木村充伯

場所: GROWING SPACE バッティングららら緑店
〒458-0801 愛知県名古屋市緑区鳴海町杜若92

「これならわたしにも描けるかも」、「6歳のウチの子のほうが上手だ」——美術館や展覧会を訪れて抽象的なミニマリズム絵画や作品を目にするたび、このような辛口コメントを心の中で呟いた経験のある人は少なからずいるのではないのでしょうか。

「I Can Do It Too! (わたしにもできる!)」は、こうした感覚にひねりを加え再解釈した、遊び心あふれるエキシビジョンです。ともすれば訪れる人にRPGゲームのような世界観を想起させる本展では、アーティストの木村充伯氏と50人の子供たちと3人の大人たち、そして3人のアーティストのコラボレーションによって制作された合計56点が披露されます。本展のタイトルは、2003年に刊行されたカレン・バイカーとケン・ウィルソン・マックスの同名の絵本からインスピレーションを受けたものです。絵本のテーマは、子供の自立と成長。主人公の幼い少女が誰の手も借りずに服を着たり、ケーキを焼いたり、ギターの弾き方を学んだりなど、周りの大人たちの真似をしてさまざまなことにチャレンジする姿を描くことで、大人たちの愛情を受けながら子供が成長することの素晴らしさを物語っています。

国際芸術祭「あいち2022」とのパートナーシップによって開催された前回の展示「GROWING SPACE」(2022)に続き、本展は共存というテーマをさらに掘り下げます。本展の共同キュレーターを務めるのは、アーティストの木村充伯

氏とSYNONYM。2022年8月に木村氏自ら司会役を務めた、バッティングから緑店を舞台に3回にわたって開催されたアートワークショップから生まれた作品を展示します。ワークショップには、地域のコミュニティの子供たちや大人たちに加えて、名古屋市名東区を拠点に英語教育を展開する「サクラキッズインターナショナル」の生徒たちも参加。日常生活でよく目にする素材を使って架空の生き物を制作していただきました。木村氏は、参加者たちが制作に没頭しているときは細かい指示を出すのではなく、自由度を重視してひとりひとりが想像力の翼を羽ばたかせられるようにと配慮しました。こうして生まれた作品には、私たちを取り巻く現実や世界に対する子供の敏感な眼差しが投影されています。純粋で素朴な想像力を探求することによって、人間がもつ無限の可能性が改めて証明されました。

自然や動物からインスピレーションを受けた本展は、生き物の生息地を表す3つの“島”に分けられています。一つ目の「みんなの島」（2022）は、木村氏が本展のために手がけた新しいインスタレーションです。このインスタレーションのセンターピースは、ふたつの島で構成されており、まるで生きているかのように地面に鎮座しています。「このインスタレーションは、島に生息する生物とそれを観ている私たちのためのものであると同時に、島そのものに属しています」と木村氏は語ります。木村氏の丁寧な手仕事が注ぎ込まれたこのインスタレーションは、ありとあらゆる海洋生物の棲家であると同時に、草と土でできた地面の上を動き回ることもできます。二つ目の「人工」は、まるでツリーハウスのような空間。人工物から生まれた様々な生き物・ロボットや人間が中に佇んでいます。その隣の「空」は、訪れる人に広々とした空を連想させることでしょうか。ドラゴンや神様を想起させるオブジェが天井から吊るされています。本展のキュレーションにあたり、私たちは子供たちへのわかりやすさを重要視しました。本展を訪れるお子様はもとより、大人の皆様にも学びやインスピレーションを与えてくれる没入体験を提供する一方で、冒険のような楽しい時間となることを願っています。本展のグラフィックデザインとイラストの創作プロセスの一部には、サクラキッズインターナショナルの生徒の皆様にもご協力いただきました。

展示されている作品のほとんどが子供たちによるものということもあり、プロのアーティストが手がけた作品と比べると大きな格差があることは否めません。それでも、私たちは子供たちの作品をほかのアーティストの作品と同等に扱うことにこだわりました。この空間を舞台にキュレーターとアーティストと子供たちの誠実なコラボレーションを実現し、子供たちにコンテンポラリーアートの世界に触れてもらうことで両者の繊細な関係性の探求を目指したワークショップから生まれた作品を展示することは、この困難で不確かな時代におけるアートの重要性を発信する、という私たちの試みを体現しています。本展は、一見すると華やかで陽気ですが、私たちのねらいはただ“カワイイ”展示を披露することではありません。華やかで陽気な表面の下には、子育てに対する疑問や、絶え間なく変化・進化する世界と積極的に交わるための新たな自信とともに子供たちの独創性や創造性を育むことの大切さなどのテーマが潜んでいます。それと同時に本展は、子供をもつすべての親や大人たちに次のことを教えてくれます —— 子供たちは、多くの場合において私たちの期待を超える力をもっているということ！

木村充伯

1983年静岡県生まれ。名古屋造形大学彫刻コース卒業。2007年に同大学院環境造形研究修了。日本やアジアのみならず、2017年のリヨン・ビエンナーレをはじめ、ヨーロッパなどのグループ展に積極的に参加。近年は、日本と韓国で個展を開催している。

木村充伯は、木彫の技法を使った作品や油彩絵の具で着色した作品を手がけるアーティストです。木村は、日常のひと時や予期せぬ親密さを感じるふとした瞬間から作品のモチーフを選びます。一目で好奇心を掻き立てる、純粹で遊び心にあふれた木村の作品には、どこかユーモラスで楽しげな側面があります。大好きな動物たち、舟越桂やゲオルグ・バゼリッツといった彫刻家の作品、5～6世紀の古墳時代の日本で普及したアニマリズムの思想をインスピレーション源とする木村は、木という素材だけを使って作品を創ります。作品の最終的な形は、木の特徴によって決まります。2015年、木村はチェーンソーを使って木の表面を彫るという独自の技法を模索しはじめました。木の表面を特殊加工してチェーンソーで毛羽立たせることで、動物の毛を再現することができます。こうした試みは、命の儚さを表現するのではなく、媒介物の曖昧さ、ひいては命と死の境界線を想起させます。

2020年9月、静岡県浜松市の鴨江アートセンターの常設アートプログラムに参加していた木村は、コロナをきっかけに「呼吸」(2020)という作品を制作しました。この作品は、多種多様な動物と“呼吸”の概念をテーマとした、進行中の彫刻プロジェクトです。「呼吸」は、人間と動物が肺を使って行う、シンプルでありながらも複雑な呼吸のプロセスをもとに、現在の社会状況下で動物との共存関係を掘り下げようとする木村の試みでもあります。

2022年7月、国際芸術祭「あいち2022」パートナーシップ事業の一環として開催された「**GROWING SPACE**」において、木村は「呼吸」という作品シリーズから、「サイガ」に焦点を当てました。サイガとは、中央アジアに生息する牛科の草食動物で、絶滅危惧種に指定されています。サイガの特徴は、何と云ってもその大きな鼻です。この鼻は、冬場は吸い込んだ空気を暖めて湿らせる一方、夏場は空気を冷やすという機能をもっています。サイガを表現する素材として、木村は日本に広く分布するヒノキを選びました。サイガに着目し、この神聖な動物と私たちとの距離感を縮めることで、木村は、人間も動物も呼吸という自然のサイクルに関わっていることを改めて教えてくれます。その一方、木村は人間として存在し、生きることの意味に思いを馳せながらも、人間主体の現代社会における「自然/人間/動物」の関係の基本的な共通点とは何か?と問いかけます。

About SYNONYM (シノニム)

SYNONYMは、コミュニティ(共同体)と、そこに根差す人々が紡ぎ出す物語に焦点を当てた、オンラインおよびオフラインのネットワーク・プロジェクト・スペースで、木村宗一郎とアクセル・ワンによって創設されました。アート及びデザインのプロジェクトや、展覧会のディレクター、キュレーター、プロデューサーとして、構想から実現までを担い、商業、潜在的価値、文化の各分野の架け橋となり、その領域の限界を超えることを目指しています。

名古屋(日本)とロンドン(英国)から始まった【SYNONYM】には、「個々人の違いを超えて、共有できる『何か』が私たちの中には在る」という意味が込められています。常に進化し続けるこの空間を介して皆さんを、この日本を起点として、様々なアイデアや「もの」が結びつくことで生まれる新たな価値と、それを共有してゆく旅にお連れしたいと思います。

同時並行的に、SYNONYMは世界中の都市の美術館、アートスペース、イベントを記録するオンライン・ジャーナルでもあります。この空間を通して、アート、ファッション、クラフト、デザインなどの分野で活躍するクリエイター、アーティスト、ギャラリスト、デザイナーとの対話を進め、世界中の才気溢れるクリエイターを結びつけることを目指しています。

Contact お問い合わせ

SYNONYM www.synonym.jp hello@synonym.jp

GROWING SPACE

バッティングららら緑店

〒458-0801 愛知県名古屋市緑区鳴海町杜若9 2

電話:(052) 891 - 5151



Credit

展示作家: 木村充伯

キュレーター: アクセル・ワン /SYNONYM + 木村充伯

プロデュース&プロジェクトディレクション: 木村宗一郎 /SYNONYM

設営協力: 山信建設

グラフィックデザイン: トレイシー・チュオン

GROWING SPACE 運営協力: Hémarsh co.,Ltd_エマッシュ

Special Thanks: サクラキッズインターナショナル



GROWING
SPACE

SYNONYM

Area	Name	Title
皆んなの島 (2022) by Mitsunori Kimura	Moka Ando	うさぎ
	Sosuke Ando	へんなどうぶつ
	Seika Aoyama	みかくにん生物
	Sora Hashimoto	アルパカ
	Mana Hattori	ねこたこ
	Mikoto Honma	ねこ
	Honoka Ikegaya	うさ
	Machi Ishida	うさぎの親子
	Reon Ito	でぶひすじ
	Kohei Iwaki	毛むくじらのゾウとそのエサ
	Shinji Iwaki	うみのスピノサウルス
	Shihori Kawai	かわいい子ざめ
	Hayato Kimura	ただの魚
	Haruki Matsuzaki	海でおよいでふカメ
	Soichiro Miura	Untitled
	Akari Morine	自然に帰る帰宅途中のハリネズミ
	Sumire Morine	風車の下のきつね
	Yutaro Mukai	へんな魚
	Rintaro Nakai	進化したハリネズミ
	Taishin Nakai	かめ
	Yuna Nakao	しっぽさかな
	Rei Oiwa	かわいい子ざめ
	Mebuki Okuyama	冬の日のねこ
	Mutsuki Okuyama	まっ白白すけ
	Eri Sakakibara	うさぎ
	Naoki Sakakibara	みかくにんせいぶつ
	Yuri Sakakibara	無題
	Ayato Sano	ほおじろざめ
	Rihito Sato	コケのカマキリ
	Sosuke Sato	かめ
	Toa Shimodaira	みみのないうさぎ
	Ayumi Shinno	かわいい子ねこ
	Riku Sonoda	ぞう
	Nanami Tahara	はずかしがりやのふわうさぎ
	Fuka Tanaka	もじゃもじゃくん
	Lin Tanaka	かめ
	Karin Tsuge	かわいい子ざめ
	Koharu Usubuchi	白色のこあら
	Kaho Watanabe	ふわうさ
	Haruki Yokohama	ハッピーしろくま

Area	Name	Title	
人工	Yusei Enomoto	ロボット	
	Kanta Fuji	Biiiisu	
	Mio Gonya	ちゃんまげのおふわふわ	
	Tomomi Gonya	モフモンブラン	
	Yuya Iwaki	かきごおり	
	Kohei Saito	バター	
	Asuna Sano	無題	
	Kyutaro Tanaka	BOSS	
	Asahi Taniguchi	目がついてるかきごおり	
	Masamune Sugino	おおもりれしゃ	
	空	Yuki Matsuura	ぞうがりゅうになった
		Yoshiyuki Morine	GOD OF FOREST
MUGA		#俺最強	
Hiroto Saito + Noriko Wada		ぶきりゅう	
Akiko Suzuki		ゆにこんくらひちゃん	